

大同工大キャンパス

No.60

2007.5

DAIDO CAMPUS

学生の勇姿／DITグッドプラクティス／教員の新刊書出版／平成18年度 学位記授与式／トコトン先生大活躍！
就職トピックス／平成19年度 入学式／やるじゃんトピックス!!／DIT COMMUNITY CAMPUS.
きょうだい・親子でDIT④／DIT CAFE.③



勇姿／平成18年度 卒業研究発表会より(写真提供：アルバム委員会)



次をつくる人をつくる

大同工業大学

第4回 キャンパスベンチャーグランプリ中部大会 2度目のチャレンジで、念願の グランプリ(大賞)をつかんだ。

中部の学生による新事業提案コンペ「第4回 キャンパスベンチャーグランプリ(CVG)中部」において、工学部 情報機械システム工学科4年 近藤弘憲君と工学部 電気電子工学科3年 早川明利君が提案した「リモコン花火」電子工作キットがグランプリに選ばれた。

2人は1月30日(火)、名古屋マリオットアソシアホテルで行われた表彰式で、賞状と賞金100万円、それに東京で開かれる全国大会への出場権を手にした。

CVG中部とは、日本の次世代を担う若者の育成を目的に、中部地区の大学、高等専門学

校などの学生を対象として新商品、事業アイデア、ビジネスプランを公募し、優れたプランを顕彰するもの。審査ではアイデア、発想の独創性、ビジネスとしての新規性や市場性、わかりやすさなどが評価のポイントとされる。

応募総数92件(23大学・高専)の頂点である「グランプリ」に輝いた、近藤君と早川君。アイデア、試作品製作、プレゼンテーション等において、オリジナリティが光っていたとの評価を得て受賞した。前年の第3回大会は近藤君1人で挑み、「中

部経済連合会長賞」を受賞している。彼にとって今回は2度目のチャレンジ。前回商品化に向け指摘された問題点などを解決、さらに他学科(電気電子工学科)の早川君とタッグを組んでペットボトル等リサイクル部品を利用した試作品を製作し、念願のグランプリをつかんだ。

幼い子どもや高齢者など機械操作に抵抗がある人たちにとっては、家電製品それぞれのリモコンを使いこなすことは大変だ。そこで2人が考案した「リモコン花火」は、声に出して操作を指示するだけで、室内にある複数の家電製品を操作できる優れた物。家電製品に囲まれて、便利なはずの現代生活で陥っている問題を解決する装置といえよう。



安井大会委員長と早川君



近藤君



リモコン花火の試作品

第3回 キャンパスベンチャーグランプリ全国大会
最終選考に残ったのは、東京大学大学院生、大阪大学大学院生、そして大同工業大学の学部生。

文部科学大臣賞・テクノロジー部門大賞を 勝ち取ったのは、大同工業大学の学部生、 近藤弘憲君と早川明利君。

この大会は全国8エリア(北海道・東北・東京・中部・大阪・中国・四国・九州)の応募663件から、地区大会グランプリなどの優秀案件11件を審査対象に、3月7日(水)、東京・丸の内パレスホテルで開かれた。

中部大会の表彰式で「ものづくり中部を全国大会で大きくアピールしてきます!」とスピーチした近藤君。見事、全国大会で最高の賞である「文部科学大臣賞・テクノロジー部門大賞」を受賞し、日本一の栄光に輝いた。

2人の全国大会での活躍を聞きつけた安井義博CVG中部実行委員長(ブラザー工業株式会社 代表取締役会長)からは「ものづくり産業を牽引する中部で育まれた旺盛なチャレンジ精神と豊かな発想が全国で認められたこと、たいへん嬉しく思います」との祝電が届いた。

「発明家になることが小学生の時から。この受賞で夢に自信が持てました」(近藤君)、「世の中を便利にしたいとずっと考えてきました。リ

モコン花火でそれを現実になりたいです」(早川君)という2人のアイデアを高く評価する企業(株式



早川君と近藤君

会社ユニメック)が登場。同社がリモコン花火専用の研究室兼工場を設ける話も進んでいる。

いよいよ2人の夢が現実となって動き始めた。

学内表彰

3月8日(木)、学長室で澤岡昭学長より「学長賞」、4月2日(月)、入学式後の石井記念体育館で新入生が見守る中、田中卓理理事長より「理事賞」がそれぞれ2人に授与された。



(写真:左から)山田忠比古電気電子工学科長、早川君、澤岡昭学長、近藤君、西堀賢司ロボティクス学科長、服部文彦学生部長が出席した学長賞授与式

第4回キャンパスベンチャーグランプリ中部大会でグランプリおよび第3回キャンパスベンチャーグランプリ全国大会で、文部科学大臣賞・テクノロジー部門大賞を受賞した功績が認められての受賞だ。



田中卓理理事長から表彰状と金一封を贈られる近藤君と早川君



第61回名岐駅伝競走大会 補欠ゼロ、6人でエントリーし無事ゴール。



スタート直後／第一走者 幅光宏君(写真中央)

昨年は6人のランナーがそろわず出場できなかった。今大会(2月4日)も補欠ゼロのぎりぎりの陣容だ。結果は一般の部38チーム中、31位。選手は「個々のコンディションから考えて、仕方がない結果」と言うが、過去2年連続17位となりシード権を獲得していたチームだけに悔しいに違いない。

6人のうち2人は今春に卒業した。「何とかランナーをそろえて、また来年出場したい」と前馬哲夫監督は言葉に力を込めた。

他の出場団体は1人のランナーに4~5人のサポートメンバーが付き添うが、DITランナーは1人でアップ等行う。また1人でも風邪・ケガ人がでればチームが出場辞退となってしまう。6人はレース以外のところで大きなプレッシャーを感じていたはずだ。そんな中、みんなよく踏ん張って完走した。翌日の中日新聞には「補欠なしで完走 ホッ」の見出しで大きく取り上げられた。



1区／幅光宏君(04J)
チームのがんばるマン。がんばりすぎるあまりに故障もしばしば…。秋までの故障がレースに影響し、本来の実力を発揮することができなかったが、エースとしてチームをよく引っ張った。



2区／道家崇文君(03J)
「道家、がんばれーっ!!」沿道からの声援がはっきり聞こえた。就職内定が決まっている企業のみなさんだ。上り坂の中盤、一番苦しい時のサプライズに力が漲ってきたそう。



3区／今堀豊史君(B06)
入学当初の持ちタイム(5000m)がメンバーで一番遅い今堀君。しかし秋に急成長を遂げる。20秒もベストを更新して臨んだこの大会、メンバーで一番がんばった先輩たちが口をそろえて彼の走りを賞賛した。



4区／荻野秀磨君(03E)
「あっ、大江川おじさんだ!!」意表をつかれた荻野君、思わずレース中にもかかわらず「ベコリ」。いつも練習している大江川緑地のランニングコースで顔を会わせていたおじさん(通称:大江川おじさん)の声援だ。「荻野くん、がんばれー!!」とでもうれしかったようだ。



5区／松原康剛君(M06)
1月30日に風邪をひき、本番前日まで39度の熱にうなされていた。しかし「自分一人のせいでチーム全員が走れなくなるわけにはいかない」との思いで、点滴を打ち寒風に立ち向かい、6.2kmを走り抜いた。



6区／蔵居慧之君(05M)
高校の時から膝に持病があった蔵居君。入学当初より1年間我慢して全く走らずトレーニングを繰り返してきたが、治らず手術することを決意。術後はリハビリを行い、夏より本格的に走り始めてのこの大会。本来の力は出せなかったが、一生懸命走りゴールした。

DITスキー部

梶部長を中心に部員 たちがベストを尽くした

東海学生基礎スキー連盟主催の第28回東海学生基礎スキー選手権大会は2月27日(火)、北志賀高原よませスキー場で開幕した。

ゲレンデだけに留まらず、日ごろのウエイトトレーニングや走りこみ等、コツコツと努力を積んだ結果が現れた大会となった。

【個人戦総合斜面大回り】

1位…梶彰克君(04B)

【個人戦急斜面小回り】

1位…梶彰克君

【新人戦大回り】

3位…田谷竜兵君(R06)

【新人戦総合滑降】

2位…田谷竜兵君

5位…酒井将嗣君(M06)

【個人戦中斜面中回り規制】

2位…梶彰克君

【個人戦中斜面小回り】

1位…梶彰克君

【新人戦シュテムターン】

6位…酒井将嗣君

【新人戦ブルークボーゲン】

1位…稲葉大樹君(B06)

2位…甲村浩喜君(E06)

2位…小林謙太君(M06)

6位…菊池和行君(E06)

6位…酒井将嗣君

【男子王座決定戦】

3位…大同工業大学



スキー部 部長 梶彰克君

DIT吹奏楽団

楽しい、面白い、 素晴らしい。

3月2日(金)18:00より、東海市立文化センターホールで吹奏楽団の第21回定期演奏会が開催された。

第1部のポップスステージは「ディズニー」「ガンダム」「ファイナルファンタジー」などのメドレーを軽やかに演奏した。第2部は企画ステージで、大同工大生の日常を表現することにチャレンジ。第3部はシンフォニックステージで「Spanish Triptych」などを熟演した。

途中、服部文彦学生部長の舞台挨拶後、飛び入りで田中卓理理事長がスピーチ。演奏会に花を添えた。



定期演奏会の模様

街をも動かすパワーがここにはある

実施報告

平成16年度現代GPにおける大学教育による地域活性化部門で採択された近隣4大学（大阪大学・滋賀県立大学・豊橋技術科学大学）の参加を得、名古屋の副都心である金山の名古屋都市センターにおいて「展覧会&シンポジウム」を開催しました。

展覧会は2月14日（水）から25日（日）まで開催し、それぞれの大学が3年間取り組んできた活動成果をポスターと模型等を用い、広く教育関係者および名古屋市民の方々に見て頂くことができました。

11日間の展覧会期間中の来場者数はおよそ1,600人（都市センター調べ）、2月24日（土）シンポジウムの参加者はおおよそ100人（主催者調べ）でした。一日の平均来場者数はおよそ150人であった。名古屋都市センターに於ける他展示会の一般地100人前後と比較すると、その値は約1.5倍であること、シンポジウム会場の定員をほぼ満たした点、シンポジウム参加者の内訳は大学生、大学院生、教職員、他大学教職員、高等学校教員、団体職員、課題提供者およびその他（一般含む）の多彩な参加者であったこと、さらに関西地区や東京、静岡からの参加者もいたこと等を考え合わせると、多くの方々の興味を喚起したイベントとなったと判断したい。

シンポジウムでは、本学澤岡昭昭学長の開会挨拶の後、本学の現代GPの推進責任者笠嶋泰教授（工学部建築学科）

の現代GPの説明と展覧会・シンポジウムの開催主旨について報告を行った。



展覧会&シンポジウムを成功させた笠嶋教授

続いて、大阪大学大学院工学研究科新田保次教授より「リノベーションまちづくりデザイナーの養成」の成果について報告。次いで、滋賀県立大学環境科学部奥貴隆教授より「スチューデントフェア『近江楽座』」について、



展覧会の模様

豊橋技術科学大学建設工学系大貝彰教授より「地域協働型工房教育プログラムの開発と実践」の報告があり、この後、本学笠嶋泰教授より「工住混合地域の街並形成へのデザイン提案」の取り組みを報告した。

休憩を挟み、「大学教育による地域貢献」について、本学の取り組み先の主エリアである名古屋市南区役所区民生活部主幹吉戸慎

博氏およびTVを通じ本学の取り組みを広報してくれたNHK名古屋放送局報道部小野田真由美氏から、「学校という大きなプレゼンテーションルームから発せられるパワーは、確かに街を動かそうとしている」、「このような授業を経験できる学生は羨ましい」との意見や感想が述べられた。

その後の討論会では、学生に対する対価の問題、デザイン提案に対する責任の所在、今後の継続の仕方等について、活発な意見交換が行われた。特に継続については、各大学とも継続する方針であることが述べられた。また、4



シンポジウムの模様

取り組みの成果と今後の事業への反映

討論会の模様



各大学からの事例報告を総合すると、本取り組みにより、①学生の地域への提案は、教員や地域の専門家の支援を必要とするものの、十分地域にとって役立つ価値ある物であることが確認できたこと

②実際の地域の課題を授業や研究の題材にするのは、学生の勉強意欲やモチベーションを高めると同時に現代人に一層必要とされるコミュニケーション能力の必要性を自覚させる良い機会を創出する取り組みであること③地域のネットワーク形成に大いに役立つ可能性のある取り組みであることの3つの確認を得られたことが成果と言えます。

今後も、このような他大学との交流の場を企画・開催し、情報を公開しながら、広く意見交換を行うことにより、伝統的な発展を促す機会としたい。

なお、本学で実施した現代GPの取り組みを多くの高校でも取り入れてもらうことを希求し、本学の取り組みを紹介した「Dラーニング（D）は大同工業大学の頭文字」という小冊子を作成した。今後この小冊子を高校に配布するとともに、高校における「Dラーニング」サポート支援を行う計画である。一方、新たな街づくりに関する課題を探するために、本冊子を名古屋市の各区分街づくり推進室や南区に隣接する東海市に配布する計画です。





工学部 ロボティクス学科 楽しく、学べ。

12月19日(火)、S0406講義室で、ブロック玩具のレゴを利用した自律走行型のロボットを製作する授業「ロボット創造実習」の一環として「レゴロボット競技会」が開催された。

この競技会は、制限時間内にフィールド内のピンポン球をどれだけ回収できるかを競うもの。

学生は半期をかけて、メカニズムやプログラムに独自の工夫を凝らして製作したロボットで競技会に挑んだ。

歓声が飛び交い非常に盛り上がるロボティクス学科の目玉授業だ。



レゴロボット競技会の模様

工学部 建築学科 学生のモチベーションを引き出す、 地域に開かれた建築設計授業。

1月12日(金)、白水校舎製図室に依頼主であるポンプ車修理工場の田中雅専務取締役と菊田勝宜工場長、そして南区役所主幹の吉戸禎博さんをお招きし、授業「建築設計Ⅳ」の一環として「学生による提案発表会」が開催された。

およそ50人全員の提案(1人3分間)を聞いた菊田さんは、「具体的な提案を図面と模型で説明して頂き、大変驚きました。本当にいろいろな構造体のアイデアと、その美しさ。現実的に今ある工場を増築して外観を変えるというものから、現実離れた大規模な建て替えまで。実用性とコストを度外視すれば、本当に面白いものが沢山ありました。現時点では、どこまで実現できるかわかりませんが、できるだけ学生の皆さんの提案を採用した工場に建て直せば良いと考えています」と感想を述べられた。



学生による提案発表会の模様

情報学部 情報学科 メディアデザイン専攻 学生&地域商店街の コラボレーション。

川戸研究室 卒業研究制作の一環として、昨年7月の「商店街イメージポスターのデザイン提案と制作」に続く第2弾「商店街グッズのデザイン提案と制作」を行った。

この学生と地域商店街のコラボレーションは衰退しつつある商店街を活性化させる「ウラ技」として、振興組合の期待は大きかった。

そのプレッシャーが学生のモチベーションを高め、プロのデザイナーではあり得ない思い切ったデザインの「エコトートバッグ」が完成した。両面とにかく大きなロゴをプリントしたバッグは、「元気なデザインだ」と好評を得、12月10日(日)に開かれた年末大感謝祭で先着1000人のお客様にプレゼントされた。



教員の新刊書出版

佐藤義久教授(工学部 電気電子工学科)

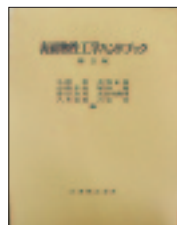
『電気設備学会誌 Vol.27 2007 No.1』の「中部支部だより」コーナーで工学部電気電子工学科 再生可能エネルギー研究室(佐藤研究室)が紹介された。



『電気設備学会誌
Vol.27 2007 No.1』
発行：社団法人
電気設備学会
発行日：2007年1月10日
定価：1,050円(税込)

堀尾吉巳教授(工学部 電気電子工学科)

表面物性工学を専門とする研究者、技術者の座右の書として、またこの分野のわかりやすい入門書として、基礎から応用までを網羅したハンドブック。進展めざましいSPM手法を詳しく解説し、最先端のトピックスも収録している。本書の「I.基礎編 第2章 表面構造 2.2.3反射高速電子回折」を堀尾教授が執筆。



『表面物性工学ハンドブック
第2版』
出版社：丸善株式会社
発行日：2007年1月31日
定価：44,100円(税込)

佐藤達生教授(工学部 建築学科)

「建築・都市」から人類の営みの歴史を読み解き直すシリーズ。4巻では、古琉球の禅宗寺院からイタリアの海洋都市まで、中世の都市・建築の細部を考察。新たな中世社会・中世文化像を浮かび上がらせる。

第7章「ゴシックの空間と壁」を佐藤教授が執筆。



シリーズ都市・建築・歴史4
「中世の文化と場」
出版社：東京大学出版会
発行日：2006年5月22日
定価：4,410円(税込)

平成18年度 学位記授与式 跳びたて、DIT生。

3月22日(木)、石井記念体育館で、平成18年度学位記授与式が厳粛に挙行された。

そこは、卒業生・修了生769人(学部生733人、大学院修士課程34人、委託生2人)の笑顔で溢れていた。

学長賞(学部生)

学業、人物、健康共に優れ、他の模範と認められたもの

- 伊藤 皓紀 君 (03M)
- 高岸 之真 君 (03M)
- 杉山 嘉宏 君 (03J)
- 渡邊 彰 君 (03J)
- 佐治 秀一 君 (03E)
- 中村 孝典 君 (03E)
- 中崎 舞 さん (03A)
- 水本 日和 さん (03A)
- 篠瀬 圭介 君 (03C)
- 藤田 広海 君 (03C)
- 石山 裕司 君 (03B)
- 横幕悠一郎 君 (03B)

学長賞(学部生)

課外活動において、特に優秀な成績をおさめたもの

- 雲井 朋幸 君 (03J)ハンドボール部
- 近藤 弘憲 君 (03J)ロボット研究同好会

学長賞(大学院生)

修士論文が特に優秀で、他の学生の模範と認められたもの

- 久野 誠治 さん (05MM)
- 長谷川慎哉 さん (05MM)
- 城山 直也 さん (05EM)
- 田辺 幸典 さん (05EM)
- 橋本 慶彦 さん (05BM)
- 山田 勇平 さん (05BM)
- 早川 智之 さん (05FM)

三好賞(学部生)

- 水野 俊亮 君 (03M)
- 大嶋 昭道 君 (03J)
- 今坂 勇樹 君 (03E)
- 小山 朋樹 君 (03A)
- 木下 憲作 君 (03C)
- 大羽 良紀 君 (03B)



学位記授与式を終えて



卒業生総代として、答辞を読み上げた
浅井多美子さん(03B)



学位記授与式会場より

卒業パーティー 無礼講かっ!?

学位記授与式を終えた学生・教職員等、総勢709人が観光ホテルで…



伊藤研究室



松居研究室



横山研究室



工学部建築学科

トコトン先生
大活躍!日本最年長の少年
澤岡昭学長

東海ラジオ「小島一宏のモーニングあいランド」
5日間連続出演

東海ラジオ「小島一宏のモーニングあいランド」
に5日間(12/25~29)連続出演。

H2Aロケットによる「きく8号」の打上げ、探査機「はやぶさ」などについて、インタビューを受けた。

宇宙ものづくりフォーラム2007/名古屋講演会



1月18日(木)、ポートメッセ名古屋で「宇宙」と「ものづくり」をキーワードに新材料・新事業の創出に繋げることを目的とする「宇宙ものづくりフォーラム2007/名古屋講演会」が開催された。澤岡学長はこのフォーラムの総括として「まとめて~地上から宇宙へ、宇宙から地上へ~」と題して講演した。

飛騨市合併三周年記念式



「飛騨市合併三周年記念式」が2月17日(土)、飛騨市文化交流センターで開かれ、澤岡学長が「宇宙をめざす日本の若ものたち」と題して講演した。

こどもサイエンスカフェ



子どもたちと記念撮影

2月18日(日)、愛知県が主催する「こどもサイ

エンスカフェ」が開催された。ゲストスピーカは日本最年長の宇宙飛行士を目指す澤岡学長。

このイベントはカフェでお茶する気軽さで、世界を舞台に活躍する科学者や技術者とおしゃべりしながら科学を学ぶもの。

小学4年生から中学3年生の子どもたち、およそ30人と宇宙への夢や可能性について話し合った。

「ロッキー・ザ・ファイナル」
特別試写会&トークイベント



3月20日(火)、ピカデリー1で日本経済新聞社主催の「ロッキー・ザ・ファイナル—NEVER GIVE UP—」特別試写会&トークイベントが開催され、およそ600人の来場者を集めた。

このイベントは、企業社会で闘う人をターゲットに、勇気や信念、チャレンジ精神、または家族との絆を伝えることを目的としたトークショーであるため、68歳にしてなお「日本最高齢の宇宙飛行士」の実現をめざしている、澤岡学長に白羽の矢が立った。

「夢をあきらめない」と題したトークイベントは澤岡学長の「幼少期の思い出」「宇宙に興味を持ったきっかけ」「夢」等についてインタビュー形式で展開された。

最後に澤岡学長から団塊世代の来場者に向けて「いつ始めても遅いということはない。夢を達成できたかどうかもさほど問題ではない。人生最後の時に自分は夢に向かってトコトンやった、極限まで挑戦したと思えた時、ハッピーな気持ちになることができるはずですよ」とメッセージを残した。

このトークイベントの内容は、4月19日(木)の日本経済新聞に大きく掲載された。

読売新聞 中部発刊32周年記念特集

「元気な工業大を語る」

「日本人には「ものづくりをしたい」という遺伝子とも言うべきDNAがある。眠っているDNAを早く目覚めさせることが大切。文系コースについてDNAが目覚めた高校生たちを見捨てず、大事に育てることも工学部の使命だと思う。」とのコメントが3月24日(土)の読売新聞に掲載された。



読売新聞/2007.3.24

宇宙ことづくりフォーラム



パネルディスカッションの様様

3月30日(金)、ホテルプロラシオン青山(東京都)で、「宇宙ことづくりフォーラム もうすぐ完成する日本の宇宙実験室—さきぼう—あなたの経験を宇宙へ~」が開催された。

このフォーラムに澤岡学長は、パネル討論「宇宙ことづくり—somethingを求めて」の司会者として参加。パネリストのひとりには向井千秋宇宙飛行士だ。

向井千秋宇宙飛行士第一回飛行記念
プレート贈呈式および記念講演会



向井千秋宇宙飛行士と澤岡学長

3月31日(土)、向井千秋記念子ども科学館(群馬県)で、「向井千秋宇宙飛行士第一回飛行記念プレート贈呈式および記念講演会」が開催された。

このイベントに澤岡学長が講演者として参加。「宇宙ってすばらしい」をテーマに、向井千秋宇宙飛行士と対話形式で講演を展開した。



鈴木桂輔 准教授

(工学部 機械工学科 機械工学専攻)
「安全運転はこころの身だしなみ」と
400人へメッセージ



会場の参加者に呼びかける鈴木准教授

12月6日(水)、社団法人 愛知県安全運転管理協議会が主催する「安全運転管理者等講習会」において、鈴木准教授がゲストスピーカーとして招待され、交通安全に関する講演を行った。

「運転中の携帯電話使用の安全性」について、これまでの実験・研究結果をわかり易く説明した。

また、愛知県の交通実態を例に、事故そのものを発生させない衝突回避ブレーキなどの「予防安全技術」や運転行動を記録するドライブレコーダ普及の必要性について、工学的な見解のみならず心理学的見解を織り交ぜながら、幅広い内容にわたって講習を展開。

最後には「安全運転はこころの身だしなみ。モラルを守った安全運転を心掛けましょう」と、参加者およそ400人へ呼びかけた。



大スクリーンを用いて、講演を展開した

岩木呂卓巳 講師

(情報学部 情報学科 メディアデザイン専攻)
NHK「金とく」(3/16放送)に出演

愛・地球博の会場にもなった、愛知県瀬戸市にひろがる「海上の森」を1年間に渡って取材し、春夏秋冬の素晴らしい風景や生き物を紹介し

た番組に岩木呂先生が出演。昆虫たちの楽園となった森の木に、岩木呂先生が考案した聴診器のようなマイク(昆虫が出すわずかな震動を草の葉や木の幹からひろう特殊なマイク)を当て、人の耳には聞こえないアリの声、キアゲハの幼虫やオニヤンマが餌を食べる音などを紹介した。



佐藤壮一郎 講師

(教養部 保健体育教室)
日本代表男子チームのコーチに就任

ハンドボール部 佐藤監督は「日本代表男子チーム・コーチ」への就任要請を受け、平成19年9月に愛知県豊田市で開催される北京オリンピック・アジア地区予選に向けての強化合宿に参加した。

ジュニアスポーツの振興と活性化に貢献



子どもたちにボールの握り方を説明する佐藤先生

1月14日(日)、名古屋市総合体育館(レインボーホール)で「第5回レッツジュニアスポーツ・体験交流イベント」が開催された。

このイベントに今回もハンドボール部 佐藤監督と部員全員が協力参加。

スポーツの楽しさを子どもたちに伝えたいと、1,000人以上もの参加者にハンドボール体験教室を開講した。

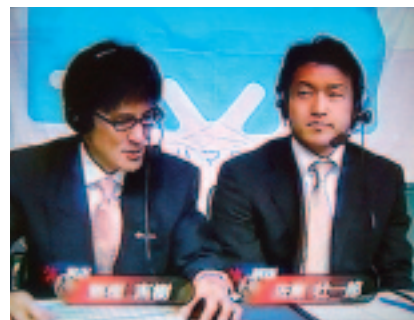
この模様は、1月25日(木)、東海テレビ「体感! コーディネーショントレーニング〜森末慎二炎の4番勝負!〜」で放送された。



(写真:右)番組にキーパーとして登場した重村翔平君(05B)

ハンドボール日本リーグのTV解説を担当

3月17日(土)に駒沢体育館で開催された、ハンドボール日本リーグプレーオフ・準決勝2試合のTV解説を昨年に引き続き、今年も担当した。(神奈川テレビ)



わかり易くて、面白い解説を展開した佐藤先生

齊藤慎太郎 准教授

(教養部 保健体育教室)
アジア競技大会で、ハンドボール日本代表女子チームの銅メダル獲得に貢献。



開会式の模様(齊藤准教授撮影)

ハンドボール部 齊藤コーチが日本代表チームの情報分析スタッフに抜擢され、カタール(ドーハ)で12月18日(月)より行われた、第15回アジア競技大会に出場した。

最終順位は、男子が6位、女子は見事3位となり「銅メダル」を獲得し、齊藤准教授はチームのサポート役として貢献した。

IROS2006にて発表してきました。

橋口宏衛 講師(工学部 ロボティクス学科)



発表する橋口先生

10月9～15日に中国・北京で開催されたthe 2006 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems(通称:IROS)にて論文発表してきました。この会議は世界のロボット研究者が一堂に会するもので、IEEE International Conference on Robotics and Automation(通称:ICRA)と並ぶロボティクス分野2大国際会議です。今回は2000件以上の論文投稿があり、約1000件が採択されました。当然、会議の参加人数も1000人以上(!)です。



IROS2006の看板

会場是北京国際会議センターでした。北京中心部からは少々離れていますが、自転車の数・人の数はさすがに中国です。この会議、中国語では“智能机器人与系统国际会议”と書かれていました。「ロボット=機器の人」、つまり、人型ロボットのイメージが先行しているのでしょうか。欧米では「ロボット=人工知能」ですから、東アジア文化圏は中身より外形重視なのかもしれない、と感じました。

私の今回の発表は、足首関節にモーターがない人型ロボットを倒れないようにバランス制御する、という研究です。二足歩行をするロボット

で姿勢を保つ場合、足首と膝に非常に大きな力が必要です。モーターで大きな力を出すためには大きな電流が必要になりますから、バッテリーはすぐに消費してしまいます。それなら、足首のモーターを取ってしまえば省エネになるだろう、という単純な発想です。しかし、メカニズムを簡単にした代償として、ロボットは不安定になってしまいます。それを制御(アルゴリズム)で補ってあげるのです。現時点ではバランスを取ることはできませんが、将来的に歩行できるように拡張するのが目標です。慣れない英語での発表でしたが、発表後には何人かの研究者が質問しにやってきました。

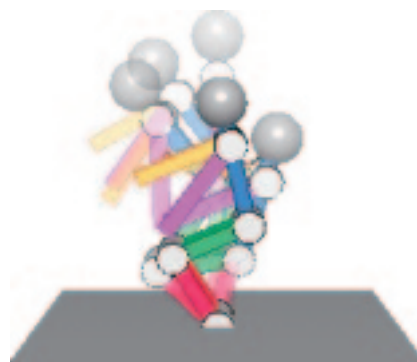
懇親会は、天安門広場の隣にある人民大会堂の宴会ホールで行われました。人民大会堂は日本の国会議事堂にあたる建物です。先日、安部首相と胡錦濤国家主席の会談が行われた場所です。この待遇は国際会議では破格だそうで、中国がロボティクス分野にどれだけ期待をしているかが感じられました。



会場の北京国際会議センター周辺の様子

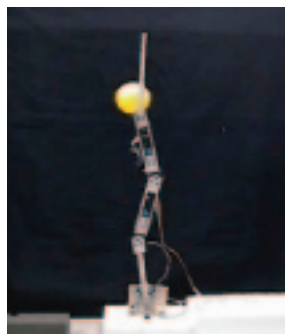
北京は今、オリンピックに向けての開発ラッシュで活気がありました。「3ヶ月北京を離れると道路が変わっていて迷子になる」と言われているそうです。確かに道路工事やビルの建設があちこちで行われていましたし、2005年の地図は役に立ちませんでした。車の数も非常に多く、3車線道路でも渋滞していました。工事や排気ガスの影響でしょうか、スモッグが酷く、視界が霞んでしまって遠くが見えませんでした。ノドも痛くなりました。諸先生方は「オリンピックのときの東京もこんなだった」「東京オリンピック以降、公害問題が表面化した」と仰っていました。こんな空気でオリンピックを開いて、運動選手は大丈夫なのでしょうが…。

大きな国際会議に参加して、世界最先端のロボット研究を目の当たりにすると、もっと自分も頑張らないと、と気持ちが引き締められます。大学魅力化策の1つとしても「～ロボットと言えばDIT」と言われるような有名なロボットを作りたいと考えていますので、教育重視の方針下ではありますが、研究にも力を入れていきたいと思います。



simulation

足首関節にモーターがない人型ロボットの動き



①



②



③

就職Topics

キャリアセンター
就職率100%維持のために 精力的な取り組みを!

企業400社 VS 学生1,800人

就職活動の幕開けを告げる恒例の学内企業説明会を、今年も2月19日(月)から実施しました。昨年は、愛知県体育館をメインに各地方(岐阜・浜松・四日市・豊田)を含め参加企業数約350社で開催しました。本年度は、企業説明を受ける機会を増して欲しいという学生達の要望を受け、学内での企業説明会を5日間にするるとともに各地方(岐阜・豊橋・四日市・豊田)での開催を再度試みました。学内での企業説明会の日数を増やしたこともあり、参加企業数は5会場合計400社、参加学生数は昨年を上回る延べ約1,800名に昇りました。学生は、事前に配布した求人内容の冊子を片手に各企業ブースを訪問し、採用担当者からの企業説明に熱心に耳を傾け、具体的な質問を積極的に行っていました。

東海地区を中心とする全国的な景気拡大の中で、採用戦線は学生の売り手市場が言われています。しかし、学生達は少しでも早い内定をと必死の顔付きでした。また、各企業の採用担



熱気の渦と化した企業説明会会場

当者は、前年度採用計画人員の未達状況から本年度の採用に当たっては人員確保に必死で、会場は熱気の渦と化していました。

本学の就職支援については、ミスマッチを防止するために、各学科の就職担当教員、卒業研究指導担当教員を始めキャリアセンターとの連携を密にし、学生の就職活動を積極的にバックアップする体制を整えています。

また、キャリアセンターでは「低学年からのキャ

リア指導」として1年次の「自己発見」2年次での「自己啓発」、3年次の「就職ガイダンス」などを積極的に実施する中で、学生の「キャリアデザイン」を主体としたキャリア教育の充実と学生達の「就職感の涵養」と、「社会人基礎力の構築」に力を注いでいます。

学生が、キャリアセンターに来て「内定貰いました」の報告に「大学の責任と安堵」を感じさせてくれる企業説明会である事を期待しています。

平成19年度 入学式 次をつくる、DIT新入生。

4月2日(月)、石井記念体育館で、平成19年度入学式が厳粛に挙行された。

キャンパス中が新入生794人(学部生745人、大学院修士課程49人)の息吹に包まれた。



入学式前の新入生たち



「入学許可」を受ける新入生たち



入学生代表として、宣誓した西 佑介君(A07)



入学式が終了した直後に記念撮影



関谷昌久教授

(工学部 電気電子工学科)

白石裕之准教授

(工学部 機械工学科 機械工学専攻)

西尾・幡豆雇用推進協議会主催
「大学教授との情報交換会」

10月17日(火)、一色町公民館にて首記の情報交換会が開催された。

本学からは関谷教授、白石准教授が招かれ、西尾市に本拠地を置く企業の採用担当の方々とコーディネーターの安恒稜氏(アシスト企画株式会社)を交えて企業側・大学側双方の情報交換を実施。本学側からは就職状況の推移や就職に向けたキャリア活動(就職支援体制・授業方法)についての説明、各企業からは企業が求める学生像や能力に関するスピーチがあり、それらに対する活発な議論が約3時間に亘り繰り広げられた。

本学の就職への取り組みについて理解して頂く良い機会となった。



情報交換会の模様

小林正典教授

(工学部 機械工学科 先端機械工学専攻)

日刊工業新聞「芽はぐくむ研究室」

1月29日(月)の日刊工業新聞「芽はぐくむ研究室」に小林教授の記事が掲載された。

「医工連携に取り組む研究室」「他大学との共同研究」「骨との密着性が高いチタン合金の構造解析」「人工関節の信頼性を高める研究」等が紹介された。



日刊工業新聞/2007.1.29

大東憲二教授

(工学部 都市環境デザイン学科)

平成18年度 名古屋市環境科学研究所
「調査研究発表会」

名古屋市環境科学研究所では、大気汚染、水質汚濁などの環境改善を目的とした調査研究を行っており、今回その研究結果についての発表会が、1月30日(火)に名古屋市役所東庁舎で開催され、「名古屋市土壌及び地下水汚染対策検討委員会」の委員として活躍している大東教授が「名古屋市の土壌・地下水汚染対策について」と題して講演した。

会場に集まった市民や市職員、およそ50人に対して、1997年9月に工場跡地の地下水から発ガン性物質トリクロロエチレンが発見されたことを契機に、名古屋市がこれまでに取り組んできた土壌・地下水汚染対策を説明した。

この講演の内容は、1月31日(水)の中日新聞に掲載された。



講演する大東教授

DIT 東海市のスポーツ振興に貢献

2月2日(金)、長年にわたりDITのグラウンドを地域に開放し、スポーツ振興に貢献したとして、東海市より感謝状と東海市で育成された、中部

国際空港の愛称を名前にした第1号の花「セントレア『ハッピーバースデー』(洋ラン)」が贈られた。



「セントレア『ハッピーバースデー』」を贈られる田中卓理(写真:左)

笠嶋泰教授

(工学部 建築学科)

社団法人 日本工学教育協会認定
教育士(工学・技術)資格制度
「上級教育士(工学・技術)」の認定を受ける
(平成19年1月19日)

この資格は笠嶋教授の教育業績評価と特別教育士の称号を受けている澤岡昭学長の推薦によって認定された。

協会は工学分野における人材育成専門家集団として、工学教育・技術者教育の質向上のために、教育士(工学・技術)資格制度を設置した。

「学者から教育者へ」研究面での博士号と同様に教育面での能力を表す資格として協会は期待している。

笠嶋教授の「教育法の工夫、学生からの評価、学生の能力向上の実績」などが多角的に評価された。



ロボット研究同好会

ロボットミュージアムに、空中ブランコロボット常設展示開始。

3月24日(土)より、名古屋市中区錦の「ロボットミュージアムin名古屋」で「空中ブランコロボット」が常設展示された。

前日の23日にはミュージアムで記者発表が行われ、ロボット研究同好会 顧問 西堀賢司教授の説明があり、製作者の近藤弘憲君(MM07)、早川典孝君(04J)、山本晃大君(R06)が紹介された。

今回展示された「空中ブランコロボット」は、愛・地球博でも実演展示して人気を博した「サーカスロボット」の改良版で、電気やモーターを使用せず、重りの位置エネルギーだけで動くコンセプトはそのままに、5度の上り傾斜をつけたバージョンアップ版だ。デザインも、情報学部 情報学科 コンピュータサイエンス専攻の横山弥生准教授とコラボレートして、白を基調に曲線を使ったスタイリッシュな仕上がりになっている。

テレビ局、新聞社の記者に囲まれて、近藤君をはじめ、早川君、山本君は、緊張しながらも立派にインタビューに応え「ロボットの不思議さと楽しさを知って欲しい」と話した。

この記者発表の内容は、3月24日(土)のフジサンケイビジネスアイ、3月26日(月)の名古屋タイムズに大きく掲載された。



記者発表で説明する近藤君

船橋仁奈

技術員兼非常勤講師

(工学部 建築学科)

第21回 国民文化祭・やまぐち2006
「光と木・竹の造形展」で入選

国民文化祭は昭和61年に東京都で第1回が開催されて以来、毎年開催されている芸術文化の祭典だ。第21回となる今回は山口県で開催された。

「光と木・竹の造形展」とは、木や竹など山林の産物を利用し、光と組み合わせることによって生まれる新しい現代美術作品を広く全国公募したもの。

今回応募した理由のひとつは、美術評論家の榎木野衣氏、建築家の三分一博志氏が審査員を務めたからとのこと。

入選作品「不死の都市～J.L.ボルヘス『不死の人』より～」では、廃材の木端を利用し、石膏の造形物と組み合わせることで、人間の内面に同時発生的にあらわれた、相反する2つの理性を表現した。

「二律背反の必然と美しさについて、また今後も機会があれば作品を作ってきたい」と話してくれた。



作品を制作する船橋さん

井上 孝司教授

(工学部 機械工学科 機械工学専攻)

産学官連携シンポジウム

2月15日(木)、テクノプラザ本館4階プラザホール(各務原市)で産学連携シンポジウムが開催され、井上教授が「注目金属材料の加工技術」と題して講演した。

また、同シンポジウムでのパネルディスカッションにおいては、コーディネーターを務めた。



講演する井上教授

DIT元浜野球場

CBC「がんばれ!ペナキッズ」を撮影。

2月25日(日)、DIT元浜野球場でCBCテレビ「がんばれ!ペナキッズ」の撮影が行われた。

数多くあるスポーツの中から毎週ひとつのスポーツをピックアップし、親子三組が頂点を目指し雌雄を決する、スポーツバラエティ番組だ。

実は番組ディレクターの松尾浩康さんは本学の卒業生(89D)。

この模様は3月25日(日)に放送された。



撮影に協力してくれたDIT硬式野球部員の
今井隼司君(05C)・伊藤孝介君(05C)・
山田尚典君(05B)



本学卒業生の松尾ディレクター(写真:中央)



出演者のパネルティ(ヒデ&ワッキー)



中村肇教授

(工学部 機械工学科 先端機械工学専攻)

知多市「大学提携講座」

3月9日(金)、知多市ふれあいプラザで中村教授による大同工業大学提携講座「暮らしに役立つ地球温暖化防止策」が開催された。

中村教授の巧みな口調で、環境に関わる話題が順にクイズ形式で進められ、参加者はクイズ大会にでも参加している様に楽しく講演に参加した。

講演終了後の参加者からの質問の多さからも、市民の環境への関心の高さが窺われた。



クイズ形式で講座を展開する中村教授

佐藤達生教授

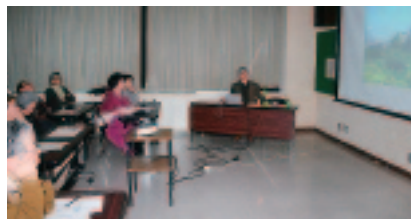
(工学部 建築学科)

名古屋市西生涯学習センター主催
「特別講演会」

3月12日(月)、名古屋市西生涯学習センターで佐藤教授が「金色のドーム～ハギア・ソフィア大聖堂(イスタンブール)学術調査報告～」と題して特別講演を行った。

佐藤教授が今年の5月17日から7月5日までの期間(全7日間)に同センターで講座講師を務めた際、受講生によるアンケート結果が非常に好評であったため、今回の特別講演会を開催することとなった。

受講者は41人。学術調査の概要を報告するとともに、ハギア・ソフィア大聖堂の建築史上の意義、建物の魅力などについて講演した。



佐藤教授の特別講演会の様子

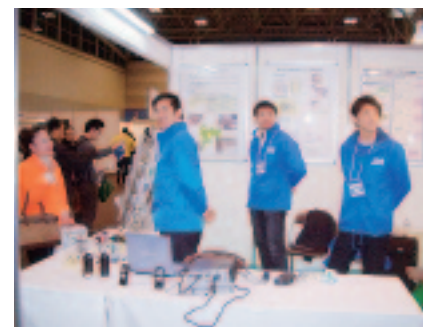
New Energy EXPO

— 新エネルギー総合展示会 —

産学連携共同研究センター(燃料電池) 出展

3月16日(金)・17日(土)の両日、ポートメッセなごやの第3展示館で「次世代を体感しよう!! New Energy EXPO — 新エネルギー総合展示会 —」が開催された。

固体高分子形燃料電池に関する研究を紹介および燃料電池のデモンストレーションを行った産学連携共同研究センターブースの様子が16日当日のNHK 12時のニュースで放送された。



お揃いのユニフォームで来場者に説明する松浦豊聡研究員、林慶彦さん(05MM)、宮沢賢広さん(MM06)

西堀研究室(工学部 ロボティクス学科)

笠嶋研究室(工学部 建築学科)

南区「魅力発見フェスティバル」

3月24日(土)、今年も名古屋市南区役所で「南区魅力発見フェスティバル」が開催された。

区役所のエントランスホールは笠嶋研究室の現代GP採択事業「学生による街づくり提案」のパネルと建築模型が並べられ、精密な模型を覗き込む区民の姿が印象的だった。

また、メインホールでの西堀研究室とロボット研究同好会による「サッカーロボット実演」「二足歩行ロボットによるロボットバトル実演」「サーカスロボット実演」は、毎年人気の目玉イベントだ。

「サーカスロボット実演」は小さな子どもたちに人気だが、その原理を聞いた大人たちも皆感心する優れ物だ。「二足歩行ロボット」をコントローラーで操作する子どもたちの目は真剣そのもの。西堀教授の説明による「サッカーロボット実演」には会場全体から多くの拍手を貰っていた。



ロボティクス学科のロゴは、梶田研究室(情報学部 情報学科 メディアデザイン専攻)の卒業生 安東雅弘さん(02B)と竹之内ひさよさん(02B)が在学中に制作したもの



DITで体験講座

高校生が大学生を体感

11月24日(金)は長野県蘇南高等学校が、また3月2日(金)は名古屋市立富田高等学校の生徒がDITに来学し、講座を体験した。

講座「マイコンによるライトレースカーの制御」を担当したのは、早川謙二講師(情報学部 情報学科 コンピュータサイエンス専攻)。生徒一人ひとりにプログラミングさせ、ライトレースカーを制御する学習を展開し、楽しい体験型講座となった。



講座の様子



プログラミングに熱中する生徒



ライトレースカーを製作する生徒



講座を担当した早川先生

ものづくり探検隊

DITにやってきた

12月5日(火)、南区のものづくり文化の魅力を広く紹介する区民調査員「ものづくり探検隊」のメンバー8人が取材にDITを訪れた。

ターゲットは、青山正治教授(工学部 機械工学科 機械工学専攻)と西堀賢司教授(工学部 ロボティクス学科)だ。

創造製作センター・ロボット工房での活動等について取材を受けた。

この情報はHP「南区特色ある区づくり推進事業紹介～南風～」にアップされている。



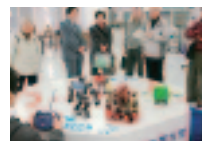
創造製作センターで取材を受ける青山教授



ロボット工房で取材を受ける西堀教授



西岡範晃くん(04J)とロボットを操作する探検隊



二足歩行ロボット実演中

水素エネルギー産業協議会

DIT見学会を実施

2月1日(木)、水素エネルギー産業協議会が燃料電池研究センターの視察に来学。燃料電池研究開発の権威である堀美知郎教授(工学部 機械工学科 先端機械工学専攻)との質疑応答を通じて、燃料電池の最新動向を掴むことが目的とのこと。

およそ40人の参加者は、堀教授の講演を受けた後、「燃料電池研究センター」「ロボット工房」を見学した。



燃料電池開発の最新動向を説明する堀教授

光田恵准教授

(工学部 建築学科)

第6回におい研究交流会

3月2日(金)、A棟14階交流室で、産学連携共同研究センター 臭気評価・制御ラボラトリー(代表者/光田恵准教授)主催・日本建築学会後援による「おい研究交流会」を開催した。

第6回となる今年度は、当ラボがこの1年間で取り組んできた研究内容を紹介するだけではなく、「臭気測定法・評価方法」を話題に交流会を展開した。



開会の挨拶をする光田恵准教授



ラボにおける研究を紹介する佐々木寛篤さん(DZ06)



DITで総合学習

中学生が大学生を体感

12月8日(金)、武豊町立武豊中学校2年生の生徒が「名古屋近郊分散研修」のため、DITを訪れた。西堀賢司教授(工学部 ロボティクス学科)が担当する「ロボット創造実習」の授業見学や鹿島孝之キャリアセンター事務室長のインタビュー、また施設見学等を行った。

後日、「将来の参考になるとても貴重な体験ができました」と感想文が届いた。

1月26日(金)、名古屋市立当知中学校1年生の生徒が「校外学習」の一環として、DITを訪れた。

環境問題について学習したい、体験・見学・インタビューしたいとのことだ。

その要望に応えるため、堀内将人教授(工学部 都市環境デザイン学科)と棚橋秀行准教授(工学部 都市環境デザイン学科)が講義・実験を担当した。「汚れた水をきれいにする実験」「油等で汚染された土をきれいにする実験」を中学生に体験してもらった。

汚れた水や土が目の前で魔法のようにきれいになる実験結果を目の当たりにした生徒たちは「オー!」「スゲーっ!」と歓声を上げていた。

後日、「中学1年生の思い出ができました。楽しい1日をありがとうございました」と礼状が届いた。



汚れた水をきれいにする実験を展開した堀内教授



油等で汚染された土をきれいにする実験を展開した棚橋准教授



生徒たちの実験を助ける森俊介さん(MC06)



亀井大さんも講義に参加、パワーポイントで生徒たちに説明した



生徒たちの質問に熱く答える鹿島室長バレーボール部員の生徒3人からは部活動の相談も飛び出した

佐藤義久教授

(工学部 電気電子工学科)

日本宇宙少年団(名古屋南分団)主催「親子講座」

2月17日(土)、A棟14階交流室で、日本宇宙少年団(名古屋南分団)主催の親子講座が開催された。講師は佐藤教授。またアシスタントとして指導学生の5人も協力参加。

静電気の不思議な性質や、形状記憶合金の反発力を利用して発電させる研究に触れてもらうなど、およそ40人の参加者に「体感してもらう講座」を展開した。



参加者からたくさんの質問があった



様々な装置を用いて講座を展開した佐藤教授



静電気の不思議な性質に触れる子どもたち



形状記憶合金の反発力を体感する親子

日本図学会 「中部支部研究会」 DITで実施

3月2日(金)、S0205講義室で、日本図学会中部支部研究会を開催した。

横山弥生准教授(情報学部 情報学科 コンピュータサイエンス専攻)がコーディネータを務める今回は、富山大学 芸術文化学部の大熊敏之准教授が「街角で文様をみつけるー住宅建築に潜む伝統的意匠」と題して講演された。



横山准教授



大熊准教授

きょうだい・親子で DIT★4

気持ちのいい兄弟だ。

3月2日(金)、「におい研究交流会」の会場に見覚えのある顔が…。卒業生の森寺だ。

在学中、指導教員としてお世話になっていた、光田恵准教授が代表を務める交流会に企業側として出席していた。

話を聞くと、弟がDITに今春入学するとのこと。グッドタイミング!「きょうだい・親子でDIT」に協力依頼したところ、年度末の忙しい時期にもかかわらず、ふたつ返事でOK!実に気持ちのいい男だ!

兄/森寺建介さん(00A)

●DITに初めて来たときの印象は?

→いかにも工業大学って感じで、俺の求めていたキャンパスライフが送れるのか不安になりました…。

●DITを選んだ理由は?

→幼稚園の頃から夢だった、父親の建築業を継ぎたかったから、建築学科へ。

●DIT、弟に勧めた?

→かなり勧めました。兄弟でDITってのも、おもしろそうだし、最終学歴で弟と比べられるのが嫌でしたから(笑)。

●最近交わしたDITの話題は?

→弟は今春入学するのですが、もう卒業研究の話題ですね。「卒業研究は、絶対光田研究室へ行け」って言ったときでした。

●好きな学食メニューは?

→ゴビエホールのからあげ定食です。あの秘伝のたれとの相性が最高だから。

●DITのお気に入りスポットは?

→白水校舎ですね。こじんまりまとまってるのが、移動しやすく最高。

●DITのココが一番いいところ!

→大学の規模が大きすぎないので、みんなフレンドリーなところ。

●○○先生感謝しています!

→光田先生感謝しています!

卒研でかなりお世話になったんです。ここでは書ききれないんで、次の機会に…って言うより、かなり問題ありの卒研生だったので公表できないくらいですね。

●大学生生活で一番の思い出は?

→ある夏の日、学食でご飯食べ終わったら天気が良いので、午後の講義をお休みして仲間達と海へドライブした事とかかな。そういう自由気ままな大学生活が楽しかったです。

●DIT生活を漢字1文字で表すとしたら?→その理由

→「工」

工業大学だし、まわりは、工場だから!

●最後に一言、ご自由に…

→はっきり言って大学生に戻りたいです。自分の責任で自由に行動できて、怠れば容赦なく単位落とされるし留年する。そんな生活がもう一度ほしいです。

最後に現役DIT生の皆さん社会人になるまでに、悔いの残らないように思いっきり遊んで勉強もがんばってください。あっ、あと我が弟をよろしくお願いします!

におい研究交流会会場
兄・建介さん



入学式の直後にインタビュー。

弟/森寺勇介くん(A07)

●入学式はどうだった?

→吹奏楽団の生演奏に感動しました。

●DIT初日を終わっての感想は?

→正直、まだ入学したという実感が湧きません。オープンキャンパスに来ているような感じです。

●DIT、兄に勧められた?

→かなり勧められました。いい奴、いい先生が多いからって。

●きょうだいでDIT、得しそーと思うことは?

→ってうか、もう得しました。オープンキャンパスの時、兄を知っている先輩たちにすっかりお世話になりました。

●DITに期待していることは?

→僕はものづくりが好きで、手先が器用なので、技術面は独学でも上達する自信はあります。しかし知識面はと言うとちょっと…。DITの授業展開そのものに期待しています。

●DITでチャレンジしたいことは?

→部活動や資格取得にチャレンジしたいです。また大学祭などの学生行事にも積極的に参加したいです。

●夢はありますか?

→まずは1級建築士になります!



入学式会場
弟・勇介君

DIT CAFE.

3

●服を捨てよ、温泉に入ろう!

入試室/松井健之

無料の温泉に入ったことはありますか?「無料の温泉があるところこそが本物の温泉地である」が私の持論だ。草津にしても下呂にしても無料で入れる場所がある。今回紹介するのは別府にある温泉。別府の栄えた温泉街から車で行く。途中ガタガタの悪路を越えること10分、歩いて10分くらいで着く。脱衣所などなく、タライが一つ置いてあるだけの質素な温泉。しかしながら、そこからの景色を眺めながらのお湯は至極の気持ち良さ、開放感は抜群だ。あ〜次はどこに行こうかな ♪ ♪



編集後記

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

本誌では学生・卒業生・教職員の活躍を掲載し、広く発信しています。

ご覧いただいた、キャンパスベンチャーグランプリ全国大会で「文部科学大臣賞」を受賞した近藤くんは、DITを「やりたいことがやれる大学」と言います。

「やりたいこと」が見えている学生は、トコトンチャレンジしよう! まだ見えていない学生は、とにかくいろんな事にチャレンジしてみよう! 大学生活には「授業・研究」「クラブ活動」「委員会活動」「資格」等々、自分の可能性を引き出すコンテンツはたくさんあります。

チャレンジ無くては、何も始まらない。DITで自分の可能性を試してみようぜ!

DAIDO CAMPUS 編集長 伊藤雅士



ラグビー部/学位記授与式後に